

人工衛星WorldView-2がとらえた「波照間島の北浜・南浜周辺」(1)

データ提供：日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

前号から人工衛星WorldView-2から見た「国土の姿」を紹介しています。下図は、波照間島の北浜（「にしばま」と言う）・南浜（「べーばま」と言う）周辺の擬似カラー合成画像(Pan-sharpened image：地上分解能0.5m/画素として処理)です。これは、Coastalバンド（400～450nm）、Greenバンド（510～580nm）、Redバンド（630～690nm）と称される観測波長帯において観測されたデータをそれぞれ「青、緑、赤」のプレーンに割り当てて表示した画像です。波照間島は、沖縄県の八重山諸島にある日本最南端の有人島です。画像をみると、北浜から南浜に分布する砂浜の白さに驚かされます。浅瀬は薄い青白色に発色、浜から500m程度離れた海面は透明感ある濃青色に発色しており、海が深くなっていることを物語っています。珊瑚礁の分布状況も判読でき、WorldView-2の特徴の一つであるCoastalバンド帯における海域の観測効果を窺い知ることができます。WorldView-2データを用いれば地表面の識別精度が向上するものと期待されていますが、土地被覆項目別の分類精度がどの程度向上するのかについては、今後の研究に委ねられます。

WorldView-2 data Observation date : December 7, 2009 (C) DigitalGlobe / 日立ソフト
Pseudo-color composite image (Pan-sharpened image) Ground resolution : 0.5m/pixel



Blue plane : Coastal Band (400 ~ 450 nm) Green plane : Green Band (510 ~ 580 nm) Red plane : Red Band (630 ~ 690 nm)

過去の「国土の姿を見る」画像集は次のURLでご覧いただけます。http://www.jacic.or.jp/books/jacicjoho/kokudo/kokudo_index.html